

水田下に沈んだ縄文時代の遺跡

— 新潟市江南区 どうしょう い せき 道正遺跡・おか ざき い せき 岡崎遺跡 —

会 期 2024 9/14(土) ▶ 2025 3/23(日)

はじめに

道正遺跡と岡崎遺跡が発見されたのは、今から6年前（2018年）に行った新潟中央環状線の建設に伴う試掘調査の時です。その後、2019～2021年に両遺跡の本発掘調査を実施しました。2遺跡の調査面積は、延べ1万㎡を超えます。これは新潟市体育館の敷地面積（11,530㎡）とほぼ同じ広さであり、大規模な調査となりました。

調査では、平安時代・古墳時代・縄文時代の3時代を確認しました。調査終了後に、出土品や記録の整理を進め、2024年3月に発掘調査報告書を刊行しました。

今回は、これらの遺跡で人が暮らし始めた縄文時代にテーマを絞って展示を企画しました。

遺跡の位置と周辺の景観

遺跡は、美田が広がる江南区割野地区^{わりのちく}に所在します。下の航空写真からは、^{かめだ さきゅう}亀田砂丘南西側の延長線上に遺跡が立地することが読み取れます。調査によって、縄文時代の地層が残っていることが確認され、当時の人々は砂丘が形成された後、その上で暮らしていたことがわかりました。この砂丘は、現在の水田面から1m以上深く埋もれており、新潟平野の沈降に伴い沈んだものと推定されます。

また、遺跡の頂上部で海拔0.2m、最も低いところで-2.0mと最大2.2m^{ひこうさ}の比高差がありました。今では想像もつきませんが、^{せきこ}潟湖や湿原が広がる中に、小さな島が浮かぶように見えていたことでしょう。



遺跡の位置と周辺の景観



岡崎遺跡全景（北から）



道正遺跡全景（南から）

道正遺跡

岡崎遺跡とは間に河川または潟湖による低地を介在するものの東に約100mの近さで存在します。亀田砂丘前列の新砂丘 I-2 に立地すると推定されます。

遺構 土器を埋めた遺構が 5 基、土坑と呼ばれる 1m 前後の大きさの穴 10 基が見つかりました。ほぼ同時代の^{おおさわ やち いせき}大沢谷内遺跡（秋葉区）と比べると、土器や石器が 2 倍以上出土しているのに対し、遺構数は大変少ないことがわかりました。遺構に埋まった砂と周囲の砂が長い年月の間に同化し、本来存在した遺構が見つげづらくなった可能性があります。そのため住居跡などは確認できませんでしたが、数百個体を超える土器や石器の量から、集落が営まれていたと考えられます。



土坑を半分に切った様子
(砂の区別が難しいため、周囲の砂を)
下げて見つけました



土坑
(本来はもっと深かったと思われます)



土器を埋設した遺構
(当時の生活面近くで見つかります
乳幼児の埋納施設とも推定されています)

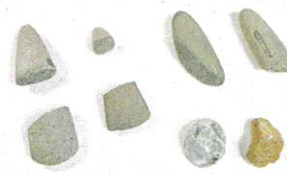
石器・石製品 石器 1,094 点、石製品 19 点が出土しました。石器では狩猟具の^{せきぞく}石鏃・調理具の^{すりいし}磨石類・石皿を含む^{たいいし}台石類が多く、時期が近い大沢谷内遺跡と同じ傾向です。また、^{まぜいせきふ}磨製石斧未成品・工具の多面体^{たたいし}敲石（ハンマー）・砥石の出土は、小規模ながら磨製石斧の製作が行われていたことを示しています。石製品では糸魚川方面からヒスイ製玉類、東北地方から^{かつせき}石棒・石剣類や滑石製根付状垂玉がもたらされたと推定されます。以上のことから、各地との交流もしくは物流が推測される遺跡です。



上段:石鏃、下段:石錐



左下:台石、ほかは磨石類



磨製石斧、右下2点:多面体敲石



滑石製根付状垂玉
(長さ30.8mm)



ヒスイ製勾玉
(長さ48.0mm)

土器 縄文時代中期から晩期にかけての土器が出土しました。特に多いのが晩期の中頃（約 2,920～2,800 年前、土器型式で^{おおほら}大洞 C2 式）の土器です。胎土が細かく、精緻な文様を施した精製土器と、胎土がやや粗く、文様も主に縄文だけの粗製土器に分けられます。

ここでは、文様構成などから時期差を見出すことができる精製土器を対象に、土器の特徴と移り変わりを紹介します。

大洞 C2 式とは？

^{かめが おかい せき}青森県^{おおほらかいづか}亀ヶ岡遺跡（世界遺産！）で発見され、その後大正 14 年岩手県大洞貝塚で出土した土器群を、発掘地点と文様変化に基づいて 6 段階に区分したものです。古いほうから B→BC→C1→C2→A→A' 式と名づけられました。



大洞 B 式



大洞 BC 式



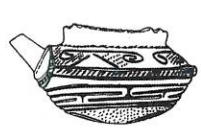
大洞 C1 式



大洞 C2 式



大洞 A 式



大洞 A' 式

佐原真編 1979 『日本の原始美術 2 縄文土器Ⅱ』より引用、一部改変

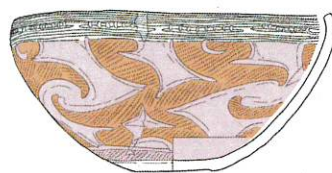
①大洞 C2 式古段階

器種：浅鉢や鉢があります。

特徴：前の時期（大洞C1式）に多く見られた雲形文のふっくらとした曲線が、横方向に間延びします。

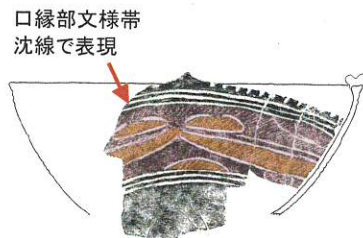
体部文様帯の幅が狭くなり、位置が体部上半部へ上がります。

口縁部文様が細い棒で引いた線（沈線）で描かれます。



鉢

参考 大洞C1式併行
いしふなといせき
阿賀野市石船戸遺跡



浅鉢

体部文様帯
雲形文

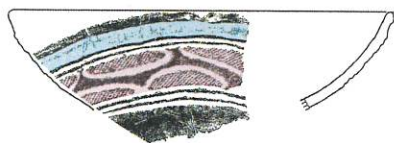
②大洞 C2 式中段階

器種：浅鉢・鉢・深鉢・壺があります。

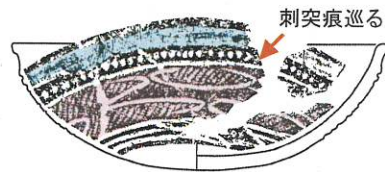
特徴：体部の文様は幅が狭くなり、雲形文は、細長くさらに簡素化が進みます。

浅鉢は、口縁部近くに模様がない部分（無文帯）がみられ、この下に、尖った棒で突いたような痕（刺突痕）が点線のように巡るものもみられます。

鉢・深鉢には、狭小化した体部文様帯に簡略化が進み、雲形というより釣針のような文様が描かれるものと、横位C字状文が見られます。

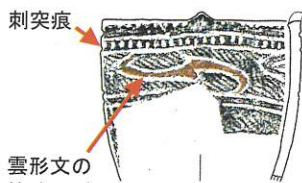


浅鉢



浅鉢

口縁部無文帯
体部文様帯



深鉢

刺突痕
雲形文の簡略化が進み、釣針のようにみえる

「C」を横にすると…

「C」

「C」

横位C字状文が巡る



鉢

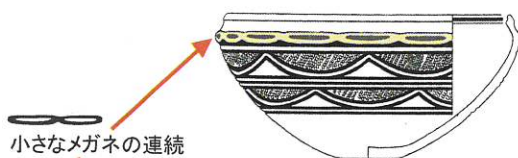
③大洞 C2 式新段階

器種：浅鉢・鉢・深鉢・壺があります。

浅鉢は、口縁が内側に少し湾曲し、新たに無文帯の下に眼鏡状隆帯文を付けるものが出てきます。なお、前段階に出てきた刺突痕が巡るものもまだあります。また体部文様帯はさらに幅が細くなり、雲形文は直線化し、いっそう簡素化します。この文様は、三条市上野原遺跡で多くみられ各地の大洞 C2 式の土器に地域色がでてきます。

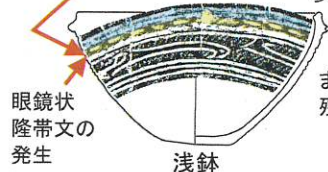
鉢は、体部上半に三叉状沈線文が巡るものが多く、深鉢や壺にも見られます。

このほか横位C字状文を上下に連結して工字状モチーフとした深鉢や壺、三叉状入組文の壺が見られます。この三叉状入組文は福島県郡山市一人子遺跡にそっくりなものが出土しており、南東北地方の影響が道正遺跡にも及んでいることがわかります。

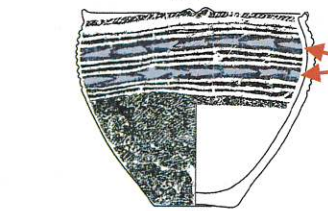


浅鉢

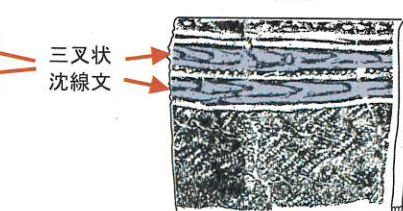
参考 三条市上野原遺跡



浅鉢



鉢

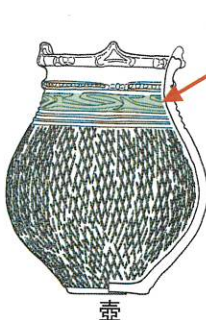


深鉢

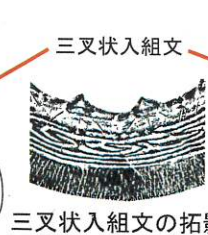
まだ刺突痕が残る

三叉状沈線文

口縁部無文帯
眼鏡状隆帯文



壺

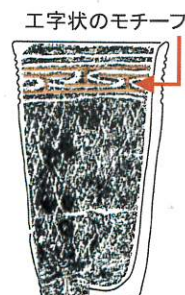


三叉状入組文の拓影

三叉状入組文



壺



工字状のモチーフ

※1 遺跡名のないものは、全て道正遺跡出土

※2 大きさは全て縮尺不同

福島県郡山市一人子遺跡出土
馬目順一 他 1970「福島県郡山市一人子遺跡の研究」
『南奥考古学研究叢書1』

岡崎遺跡

道正遺跡の西、約100mに存在します。道正遺跡の砂丘列とは少しずれますが、同じ亀田砂丘前列の新砂丘 I-2 に属すると考えられます。砂丘の頂上部は近世以降の開発により、削平されていました。

遺構 道正遺跡と同様に遺構と周囲の砂の識別が難しいため、周囲を掘り下げながら遺構を見つけました。土坑と呼ばれる径1～2m前後の穴3基、ピットと呼ばれる0.3m程度の穴1基が見つかりました。



土坑を半分に切った様子
(左から右に砂が流れ込みました)



土坑内の縄文土器出土状況



径0.3mほどのピット(穴)

遺物 土器、石器、搬入礫が出土しています。頂上部は削平されているため、砂丘の海側斜面～縁辺部にかけて見つかり、西側に多い傾向があります。

土器 時期は縄文時代中期～晩期のものですが、多様な時期の土器が少量ずつ見られます。



中期前葉

※器種：6点とも深鉢



中期前葉か



中期中葉



後期中葉



晩期前葉



晩期

石器 縄文時代の石器が122点見つかりました。土器の時期から中期～晩期のさまざまな時期のものと思われます。狩猟具の石鏃・石鏃未成品をはじめとする剥片石器、及びその材料となる剥片・石核が多く見つかりました。



左2点：石鏃、右2点：石鏃未成品

おわりに

これまで、土器の変化や石器の利用について述べてきました。文様構成をよく見ると、縄文時代のなかでもさらに細かく時期が分けられることや、湿地に囲まれた遺跡の立地、日本各地からもたらされた石材の存在などから、水上交通を利用した交流があったことがわかりました。一方、石材と何かを交換したのか、どのようなルートをたどったのかなど、解明すべき謎もまだまだ残っています。ぜひ、みなさんもこの謎解きに挑戦してみてください。

主催・問い合わせ先

新潟市文化財センター TEL 025-378-0480

〒950-1122 新潟市西区木場 2748-1 FAX 025-378-0484

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/bunka/rekishi/maibun/index.html>

開館時間／平日 午前9時～午後5時

土・日・祝日 午前10時～午後4時

休館日／毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)、
11/26(火)、12/28(土)～1/3(金)、2/12(水)、
3/21(金)

